

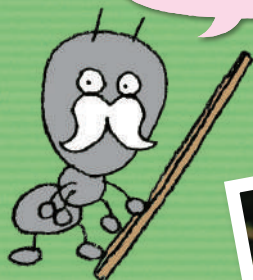
くま の こ どう 熊野古道 ってな^いに?



三重県にある世界遺産だから、
一度は歩いてみたいね!



ワシが案内するのじゃ!



三重県

世界の宝物! 熊野古道

目次

世界の宝物! 熊野古道	1
「熊野古道」のルートを教えて!	3
どうして熊野三山をめざしたの?	5
昔の旅はどんなふうだったの?	7
熊野古道伊勢路の特徴は?	9
熊野古道には自然がいっぱい!	11
熊野古道沿いの昔の暮らし	13
「熊野古道伊勢路」を守ろう	15
もっと知りたい!「熊野古道」	17

わたしたち
私達が住んでいるこの地球には、すばらしい自然や建物が多くあります。その中でも特に価値を認められ、未来に残して伝えていかなければならない「世界の宝物」のことを「世界遺産」と言います。

現在、1000件を超える世界遺産が登録されています。「熊野古道」(熊野参詣道)は2004年(平成16年)7月7日、日本で12番目に登録された三重県で唯一の世界遺産であり、正しい登録名は、「紀伊山地の霊場と参詣道」といいます。「紀伊山地」とは三重県、奈良県、和歌山県にまたがる山地のことで、「霊場と参詣道」とは、修業する場所やお参りをする神社やお寺と、そこに行くための道のことです。

「熊野古道」は、「熊野に向かう古い道」として昔の人の生活を支えた道でしたが、それと同時に霊場「熊野三山」へお参りする「参詣道」としての価値により、世界でもめずらしい「道の世界遺産」として認められました。

「熊野古道」は、
三重県・奈良県・和歌山県に
またがる「道の世界遺産」
なんじゃよ。



世界でもめずらしい
道の世界遺産が
三重県にあるなんて!
歩いてみなくちゃね。



コラム

「世界遺産」って、いつできたの?

1960年代ユネスコ※は、アスワンハイダムの建設によってナイル川流域にあったヌビア遺跡を水没の危機から救うために、この遺跡群を移築して保存するキャンペーンを行いました。

このときに「人類共通の遺産」という「世界遺産」に関する基本的な考え方が広がり、1972年に「世界遺産条約」ができ、「世界遺産」の登録が始まったのです。

※ユネスコ:「国際連合教育科学文化機関」という国際連合の専門機関の一つで、教育・科学・文化・コミュニケーションの分野で、国際協力を進め、平和のとりでを築く活動をしています。

調べてみよう

「熊野古道」以外に、日本にはどんな世界遺産があるのかな?

「熊野古道」のルートを教えて！

千年もの昔から、多くの人々が「熊野古道」を歩いて、
くまのさんざん くまのほんぐうたいしゃ くまのはやたまたいしゃ くまのなちたい
「熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大
社等）」にお参りました。熊野古道のルートには、おも
におおさか なかへち おおへち
に大阪や京都の人たちが通った「中辺路」「大辺路」
こへち いせし いせじんぐう
「小辺路」と、伊勢市にある「伊勢神宮」のお参りをすませ
た人たちが「熊野三山」に向かうために通った「伊勢
路」があります。

また、和歌山県の「高野山」にあるお寺にお参りする
こうやさんけいみち しゅげんじや しゅぎょうどう おおみねおくがけ
「高野参詣道」と、修験者が使った修行道「大峯奥駈
道」も、熊野古道とともに世界遺産の一部となってい
ます。

※熊野古道の道の全てが世界遺産に登録されているわけではありません。

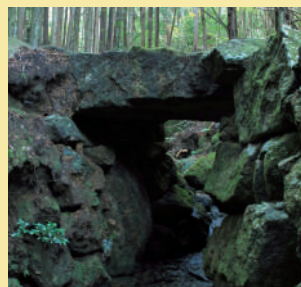


和歌山県にも奈良県にも、
熊野三山にお参りする
熊野古道があるんだね。

コラム

松本峠の石橋

熊野古道伊勢路の「松本峠」の峠道は、谷に大きな石橋をかけて、
歩く人たちが安全に通れるように工夫されています。石橋の長さは
約2m50cm、厚さは45cmもあります。大きな機械がなかった
時代に作るのは大変な作業だったはずですよ。



大辺路 おおへち

くまのなだ
「熊野灘（太平洋）に注ぐ
熊野川は、「熊野本宮大社」への
行き来に利用されたことから、
「川の参詣道」と呼ばれて
あったんじゃないよ。



熊野川

調べて
みよう

「熊野三山」に行く「熊野古道」には、どんなルートがあるのかな？



伊勢路エリア

熊野古道伊勢路は、
三重県の南部にあるんだ！



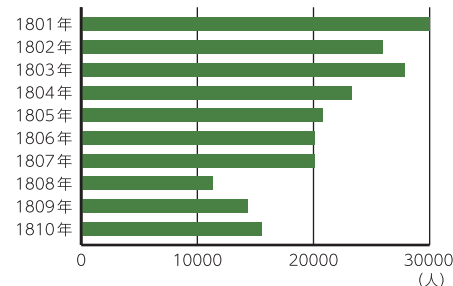
くま の さん ざん どうして熊野三山をめざしたの？

自然に恵まれた日本では、昔から大きな山や川、木や滝や岩などに神さまや仏さまがいると信じられてきました。険しい山と大きな海が広がる熊野は、神さまや仏さまがいるすばらしい場所だとされ、京都に都があった昔、「人が亡くなると、その霊が南の方へいく」と思われていたことから、人々は都から南の方角にある熊野三山をめざしたのです。

また、昔は女の人では入れてもらえない神社や滝もありましたが、熊野の神さまや仏さまの、目の見えない人、手足の不自由な人、貧しい人をやさしく見守り、「人を差別せず、すべての人を受け入れる」という教えから、熊野三山はだれでもお参りすることができました。

そのため全国から多くの人々が「熊野古道」を歩いて熊野三山をめざし、「死んだあと生まれ変わって、幸せになれますように」とお参りをしたのです。

巡礼通行者数 (1801年～1810年調査)



「三重の文化 熊野古道編」より引用

1800年ごろ（江戸時代の終わり）にお伊勢さんから熊野三山をめざした旅人は、毎年1万人を超えてあるんじゃ。



実際に歩いてみて昔の人のたいへんさを体験するのも大切だね。



コラム

「蟻の熊野詣」ってどういうこと？

熊野の神さまや仏さまへの信仰は、身分の高い人から庶民にも広がっていきました。やがて蟻の行列のように多くの人がお参りに行くようになったことから、「蟻の熊野詣」と呼ばれるようになったのです。



くま の ほん ぐう たい しゃ
熊野本宮大社



くま の はや たま たい しゃ
熊野速玉大社



くま の な ち たい しゃ
熊野那智大社

133メートルの高さから落ちる、日本一の「那智の滝」は、滝そのものが神さまとしてあがめられてあるんじゃ。



な ち たき
那智の滝

昔の人は信心深いことをたどって「伊勢へ七度熊野へ三度」というほど、伊勢神宮や熊野三山への参りは浸透していたみたい！



調べてみよう

三重県でほかに有名な神さまがまつられているところはどこかな？

昔の旅はどんなふうだったの？

車や鉄道のない昔の旅は、自分の足で歩いて行くのが当たり前でした。体の調子が悪くなったり、天気が悪くなったりした時は、予定どおりにはいかなかったことでしょう。また、泥棒や追いはぎの被害に出くわすこともあり、山や海岸など険しい道を歩くことから、危険にみちた命がけの旅でもありました。

熊野市と御浜町・紀宝町には熊野古道「浜街道」があります。「浜街道」は海岸沿いを通り、志原川や尾呂志川などの難所があります。当時は橋もなく、波の引き間を利用して河口の浅瀬を走って渡りましたが、時には波にのまれて亡くなった人もいました。今もその人たちを祀る巡礼供養碑があります。



浜街道（七里御浜）と旅で亡くなった人を祀る巡礼供養碑

私たちには想像もつかない危険な旅だったのね。



コラム

道中の楽しみ

危険な旅でしたが、旅ならではの楽しみもありました。それは食事です。険しい峠を登り切りほっとして食べる峠茶屋のお餅やお菓子、宿での食事などは、さぞかしおいしかったことでしょう。

巡礼者など一般の旅人が食べていた食事は、麩と豆のみそ汁や干切り大根、ぜんまい・しいたけの煮物などが出されることが多く、イワシの塩焼きなどは別に買って食べていたようです。



巡礼者など一般の旅人が食べていた食事

昔の人の旅姿

ヒノキ笠・スゲ笠

今の帽子のかわりです。夏の強い日差しや雨を防ぎました。



手っ甲・脚絆

手や足を守るものです。冬は寒さからも守ってくれました。



笥・振り分け荷物

「笥」は竹や藤を編んだもので、今でいうリュックサック。「振り分け荷物」は、カゴに入れたり風呂敷に包んで、ヒモでつないで肩に担いだものです。

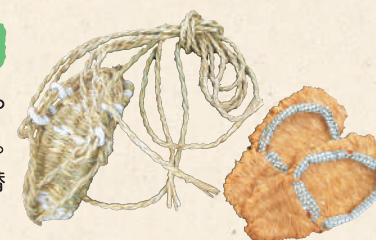
笥摺（おいずる・おいずり）

「笥」を背負ったときに背中がすれないようにする袖のない上着のようなものです。巡礼者が祈りながら旅をするときに着ました。



わらじ・ぞうり

昔の人はワラで編んだ「わらじ」や「わらぞうり」をはいていました。一日はくたびくたびになって取替えていたそうです。



その他の持ち物

通行手形、手ぬぐい、弁当箱、薬、針、矢立（筆と墨が入った昔の筆記用具）、下着、扇子、風呂敷、キセル（たばこ道具）、ろうそく、火打石、枕など



三重県立熊野古道センター所蔵

調べてみよう

昔の人は旅の荷物を軽くするために、どんな工夫をしたのかな？

熊野古道伊勢路の特徴は？

紀伊半島の西側を通る「中辺路」「大辺路」は貴族などの身分の高い人たちが歩いたのに対して、熊野古道「伊勢路」は主に江戸時代に伊勢神宮へのお参りをすませ、「熊野三山」をめざす旅人や、西国三十三所巡りの巡礼者が多く歩いた庶民の参詣道でした。

現在では交通機関が発達したこともあり、美しい石畳やすばらしい景色にさそわれて、多くの人々が熊野古道伊勢路を歩いています。しかし、当時の巡礼者はお伊勢さんから熊野三山まで、いくつもの峠を越えながら、5日間くらい歩き通しの旅でした。

厳しい旅の一方で、伊勢路沿いには困った巡礼者を助けたり、自分の家に無料で泊めてあげる「善根宿」があり、おもてなしを受けた多くの旅人の記録が残っています。

納札



熊野市の大泊町の善根宿では、もてなしを受けた旅人らがお礼に残した「納札」が5444枚も見つかっています。「納札」には、旅人の住所や氏名、行き先などが書かれており、当時の様子を知る貴重な資料となっています。

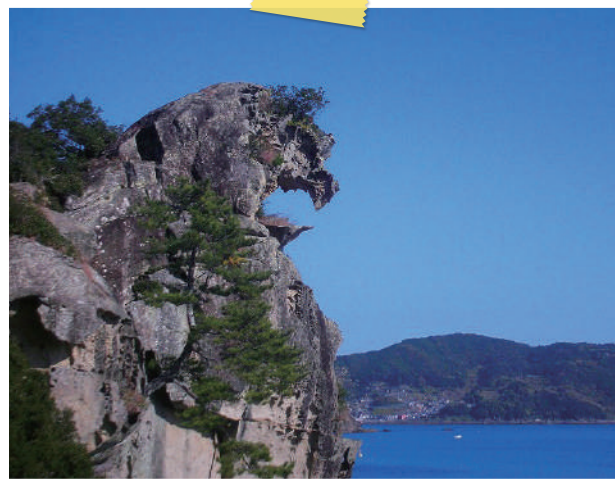
知らない人を泊めて
あげていたなんて、
昔の人のおもてなしの
心ってすごいね



熊野古道伊勢路の松本峠の東屋からは、はるか遠くまで続く七里御浜と熊野灘が一望できます



熊野古道伊勢路の特徴である美しい石畳が続く松本峠の道

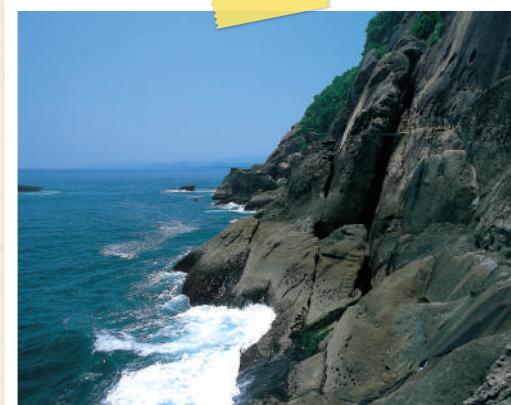


獅子岩

熊野古道「松本峠」のふもとにある「鬼ヶ城」をはじめ、「浜街道」沿いの「獅子岩」と「花の窟神社」も世界遺産の一部です。荒波に削られた自然の芸術作品のような「鬼ヶ城」、地元の「大馬神社」を守るこま犬とも言われる「獅子岩」、高さ45メートルの大きな岩を神さまとしてまつ日本で最も古いと言われている「花の窟神社」など、熊野の豊かな自然は、神さまと深く結びついていたことがわかります。



花の窟神社

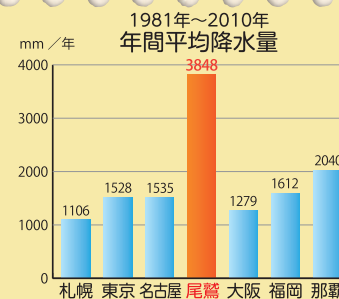


鬼ヶ城

コラム

どうして「石畳」が多いの？

美しい「石畳」は熊野古道「伊勢路」の大きな特徴ですが、これは昔の人が日本有数の多雨地域で、山道が崩れないよう敷きつめたもので、現代の舗装道路のようなものです。



調べてみよう

熊野古道伊勢路には、ほかにどんな峠や道があるのかな？

熊野古道には自然がいっぱい！

熊野古道の周辺は、山や川、海が広がる自然の豊かな場所で、一年中、比較的温暖です。また、東紀州一帯は日本でも雨が多い地域で、尾鷲市では年間3,800ミリ(他の多くの町では1,500ミリほど)もの雨が降ります。

シダやコケなど、たくさんの植物がみられ、ヒノキやスギなどの木材を生産する林業がさかんです。



アサギマダラ
渡り蝶のアサギマダラの美しい姿



尾鷲ヒノキ (2017年(平成29年)3月、日本農業遺産に認定)
ヒノキは、古くから家を建てる最高の材料とされてきました。なかでも東紀州の尾鷲を産地とする「尾鷲ヒノキ」は、一般のヒノキよりも頑丈だと高い評価を受けています。伊勢志摩サミットでは首脳会議用円卓などに使用されました。



スギ
ヒノキと同じ日本特産の常緑高木(一年中、緑の葉をつけ大きくなる木)で、日本ではもっとも多く利用されており、神社ではその巨木が見られます。



ハンカイソウ



ウグイス



イノシシ



ニホンジカ



しし垣

熊野古道沿いには、クマやイノシシ、シカ、サルなども棲んでいます。よく見るとイノシシが餌を求めて土や石を掘り返した跡や、シカに食いちぎられた草や木が見られます。昔の人は田畑をイノシシやシカから守るため、長い「しし垣」を築きました。



タヌキ



ニホンザル

熊野古道に生きる動物との共存についても、考えなくてはいいかなのう。



コラム

「シダ」って知ってますか？

熊野古道の森の中は、太陽の光が届きにくく、湿度も高いので、「シダ」や「コケ」の仲間がたくさん見られます。お正月のしめ縄飾りにつける「ウラジロ」もシダの仲間。ほかにも珍しいシダやコケが見られます。
※いたずらに植物を採ったり、動物に近づくのは止めましょう。



ウラジロ

葉の裏が白く見えることからこの名前がつきました。頭飾りにしたり、グライダーのように飛ばして遊べます。



ヒノキゴケ

茎の一番上が動物の尻尾のように曲がっているのが「イタチのシッポ」と呼ばれ、親しまれています。

調べてみよう

熊野古道を歩いて、見つけた動物や植物の名前がわかるかな。

熊野古道沿いの昔の暮らし

海の幸に恵まれた東紀州は、昔は「クジラ漁」がさかんで、漁師はみな協力して命がけで漁にあたりました。「クジラー頭捕れば七浦（七つの村）潤う」と言われ、クジラは浦々に潤いと幸福を運んでくるものでした。

山も多く、スギの葉やヒノキの枝などは「木こり」の手によってたきぎになり、「炭焼き」の仕事でウバメガシやカシなどの木から炭が作られました。ほかにも「大工」や「船大工」など木に関わる仕事が多くありました。

また、平地の少ないこの地域では、斜面を利用した「棚田」という小さな田んぼで米を作りました。昔の人の仕事はほとんど手作業で、たいへんな苦勞がありました。



ハラソ祭り

当時のクジラ漁を再現した「ハラソ祭り」が毎年1月、尾鷲市梶賀町で行われておるぞ。

海の暮らし



里の暮らし



斜面を利用して作られた「棚田」
(丸山千枚田)

炭焼き

東紀州には良い炭ができる木が豊富で、炭をつくる仕事もさかんでした。



山の暮らし

家建てる

江戸時代には、山の木を切りだして、板や柱を作り家を建てて大工さんがいました。

船をつくる

荷物を運ぶ小さな「川船」や、海で魚をとる大きな「漁船」づくりにかかわる「船大工」さんがいました。

船で運ぶ

炭や材木を船で江戸や大阪に運ぶ、海運の仕事もありました。



コラム

暮らしに根づいた東紀州の「伝統食」

約300年前に紀州で始まった「サンマ漁」ですが、海の幸に恵まれた東紀州では、今でも秋から冬にかけてとれたサンマを、寿司や丸干しにして食べています。



カツオ節

サンマ寿司



調べてみよう

丸山千枚田には、何枚の田んぼがあるのかな？

「熊野古道伊勢路」を守ろう

今、私たちが家族や友だちと歩く「熊野古道」は、整備されたすばらしい道です。しかし、30年ほど前までは、土や雑草、雑木に埋もれて荒れ果てた道も多かったのです。

そこで、荒れ果てた熊野古道を元の姿に戻そうと、三重県や東紀州地域の市や町と地域の住民が一緒になって、「熊野古道整備計画」(1996年3月)を作りました。そして、地域の人たちの積極的な活動が実を結び、しだいに元の姿を取り戻していきました。

地域が一体となったこれらの活動は、熊野古道を有名にし、世界遺産登録(2004年7月7日)につながっていったのです。



九鬼港に入る大阪商船
(大阪一名古屋間の定期便)

明治時代以降、様々な交通機関が発達し、陸上だけでなく、海の交通も重要な役割を果たしていました。やがて、昭和時代には列車や自動車が行くようになり、生活が便利になると、昔の熊野古道はだんだん使われなくなったのです。

コラム

かごの幅に合わせて整備された熊野古道の道幅

現在目にする「熊野古道伊勢路」の多くは、江戸時代(約400年前)以後に整備されました。当時は和歌山に城を持つ紀州藩が治めており、今の熊野古道の道幅が一間半(約2.7m)あるのは、紀州藩の殿様が乗るかごの幅に合わせていると言われています。熊野古道にある「駕籠立場跡」は、熊野古道を通るかごが、休息した場所のことです。



八鬼山道の駕籠立場跡

調べてみよう

現在、熊野古道の周辺にはどんな道があるのかな？

「熊野古道伊勢路」を守る人たちの活動



始神峠の整備風景



松本峠の整備風景

機械化が進んだ今でも、台風や大雨により壊れた道路の復旧作業は大変です。ましてや、昔の人たちが道を元通りに戻す作業は大変な苦勞でした。

私たちの先祖は、みんなで力を合わせ、知恵を出し合って、道を直しました。そして、日頃から絶え間ない点検を行ない、ずっと守り続けてきたのです。

現在でも熊野古道伊勢路の各峠道には、保存会があり、熊野古道の清掃や危険箇所の点検・修復などの活動をしています。



草木を伐採して道を整備(荷坂峠)

保存会の人たちは、台風などで被害を受けたときも、作業をして元通りの熊野古道を守ってくれているんじゃ。



地域の人たちの活動によって守られてきた大切な遺産「熊野古道」をぼくたちも守って、未来につなげないといけね。



もっと知りたい!「熊野古道」

「熊野古道」のことをもっと知りたい、もっと調べたいと思ったら、「三重県立熊野古道センター」に行きましょう。熊野古道を訪れた人がくつろぎ、交流できる「交流棟」や体験学習ができる「体験学習室」、熊野古道とその周辺の歴史、自然、文化を紹介する「常設展示室」や「映像ホール」、深くテーマを絞った企画展を行う「企画展示室」などがあります。



映像ホール



ハイビジョン映像で熊野古道の歴史や四季折々の景観が常時放映されています。

関連 P11・P12

企画展示室



貴重な資料を全国各地から集め、より深くテーマを絞った企画展を開催しています。

語り部さんと熊野古道を歩こう!

熊野古道やその近くの町の自然や歴史、文化を紹介しようと、世界遺産登録前の1999年、「熊野古道語り部友の会」ができ、今も東紀州の各峠道をガイドし、熊野古道や東紀州地域の魅力を紹介しています。



語り部による案内

語り部さんと歩く
熊野古道も、
おもしろそうね!



常設展示室

熊野古道とその周辺の歴史、自然、文化を実物資料やレプリカ、映像等でわかりやすく紹介されており、熊野古道の魅力が詳しくわかります。



世界遺産の登録

世界遺産とは何か、そして世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」について解説されており、様々な美しい映像が鑑賞できます。

関連 P2

熊野古道を歩いた人々

熊野古道「伊勢路」の中でも象徴的な6つのシーンを、道中記や絵図などを元に再現されたミニチュアジオラマにより、旅人とそこに暮らす人々の生業の様子を紹介します。また、修験者や巡礼の装束・道具などの資料も見ることができます。

関連 P7・P8



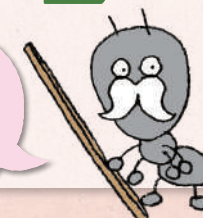
熊野古道の自然・生活史

自然史のコーナーでは、熊野古道及びその周辺で出会える様々な動植物を、写真や標本によって解説しています。生活史のコーナーでは、この地域で暮らす人々が自然とのかかわりの中で育んできた伝統産業、林業、農業、漁業などの生業を、写真や映像等で解説しています。

関連 P11・P12・P13・P14



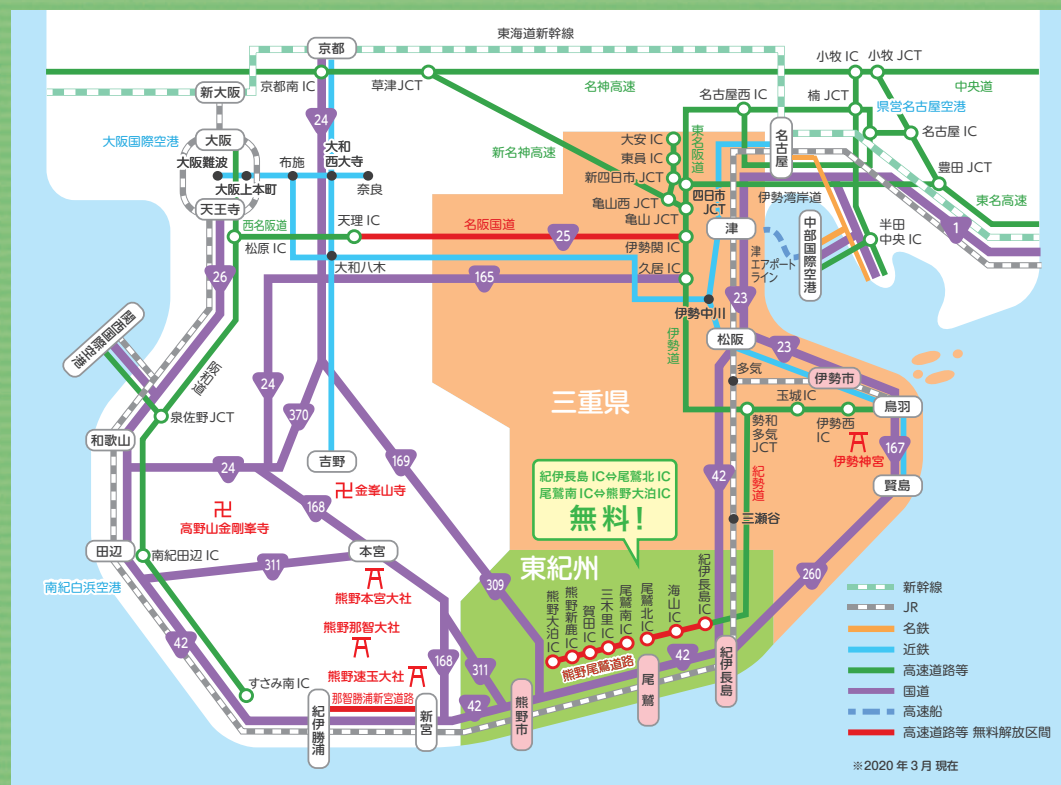
「熊野古道」について
学ぶなら、ここにくるのが
いちばんじゃ!



わたしたちの町にある世界の宝もの「熊野古道」。昔の人々や地域の人々が大切に守ってきたわたしたちの宝ものです。この「熊野古道」をいつまでも大切に伝えていくために、次のことは必ず守りましょう。

- ✓ 道であった人には笑顔であいさつをしましょう。
- ✓ ゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ✓ 植物・動物などの採集はやめましょう。
- ✓ 道からはずれないようにしましょう。
- ✓ 火遊びは絶対しないようにしましょう。

みんなの力で
世界遺産「熊野古道」を
守っていきましょう！



監修 三重県立熊野古道センター
発行 三重県地域連携部南部地域活性化局 東紀州振興課

〒514-8570 三重県津市広明町13番地
TEL: 059-224-2193 FAX: 059-224-2418

本書掲載の文章、写真およびイラスト、図等の無断転載、
無断引用、二次配布についてはこれを固く禁じます。

2020年3月改訂

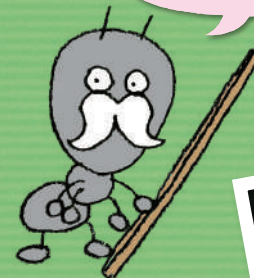
熊野古道ってなに？



三重県にある世界遺産だから、
一度は歩いてみたいね！



ワシが案内するのじゃ！



三重県